

運行中のあらゆる局面で、さらなる安全性の向上を追求しました。

安全走行

アクティブセーフティ

プリクラッシュセーフティ

パッシブセーフティ

ドライバーモニター

顔向きや眼をモニターし、前方不注意を警告

走行中のドライバーの顔向きや瞼の開閉状態を常にカメラでモニター。前方注意力不足を検出時には、警報音と警告表示で注意を喚起します。太陽光やサングラス着用の影響下でもドライバーの状態を検出します。



ドライバーモニターカメラ



モニターカメラがドライバーの運転状態を確認

車間制御クルーズ



先行車との車間距離を維持し、安全運転に貢献

先行車との車間距離を自動的に維持して走行します。長時間運行時のドライバーの運転疲労を軽減し、安全運行に貢献します。



操作スイッチ



<イメージ>

・安全車間距離※を優先して追従走行します。
・車間距離が安全車間距離以下になると、自動的に車速を調整します。
・方が、車間距離が急激に縮まった場合は衝突被害軽減ブレーキが作動します。
※先行車がブレーキをかけた時に衝突せずに停止できる最小車間距離。

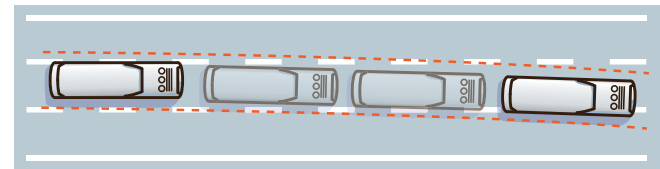
車線逸脱警報

車線を逸脱すると警報音で、注意を喚起

室内搭載の画像センサーにより車線に対する車両位置を検出。車線を逸脱すると警報音と画面表示で警告します。



画像センサー



<イメージ>

車間距離警報装置



車間距離が縮まると警報音で、注意を喚起

先行車との車間距離が安全車間距離※以下になった場合、マルチインフォメーションディスプレイの警告表示および警報音でドライバーに注意を促します。

※先行車がブレーキをかけた時に衝突せずに停止できる最小車間距離。

車両安定制御システム

横転や横滑りなどの危険を抑止

車両の横転、スピン、ドリフトアウトの危険を判断し、警報、エンジン出力制御、自動ブレーキの作動により、ドライバーの回避操作をサポートします。

※VSCとは「Vehicle Stability Control」の略で、トヨタ自動車の登録商標です。



車両ふらつき警報

ふらつきを検知し、警報で事故防止

ステアリングの操作量からふらつき度合いを判定し、警報を発して注意を喚起します。警報が続くと、衝突被害軽減ブレーキの作動を早めます。



注意! 運転中の眠気や疲れ、体調不良を検出するシステムではありません。
・道路/交通環境によっては警報を発しない場合があります。

衝突被害軽減ブレーキシステムへの衝突回避支援機能の追加やドライバーモニター・車線逸脱警報を新たに標準採用するなど、ガーラの安全性がいちだんと進化。安全運行から万が一の時まで、ガーラはバスの安全性をあらゆる角度から追求します。



衝突被害軽減ブレーキシステム



*本システムは2014年11月から適用される「衝突被害軽減ブレーキの新基準」に適合しています。

走行中、ミリ波レーダーが常に車両前方を検知・分析します。万一、追突の恐れがある場合には警報やブレーキ作動によりドライバーに注意を喚起。さらに追突の可能性が高くなると、より強力なブレーキが作動し、衝突時の速度を抑え、衝突被害を軽減します。この衝突被害軽減機能に低速で走行する先行車に対して衝突回避を支援する機能を新たに追加。追突の恐れが高まるとより早いタイミングでフル制動し、衝突回避をサポートします。

<衝突被害軽減ブレーキの主な機能>

【衝突回避支援機能】

- 前方の低速走行の先行車を検知し、追突の恐れがあると警報やブレーキ作動で注意。より危険が高まると早いタイミングで強いブレーキが作動。

【衝突被害軽減機能】

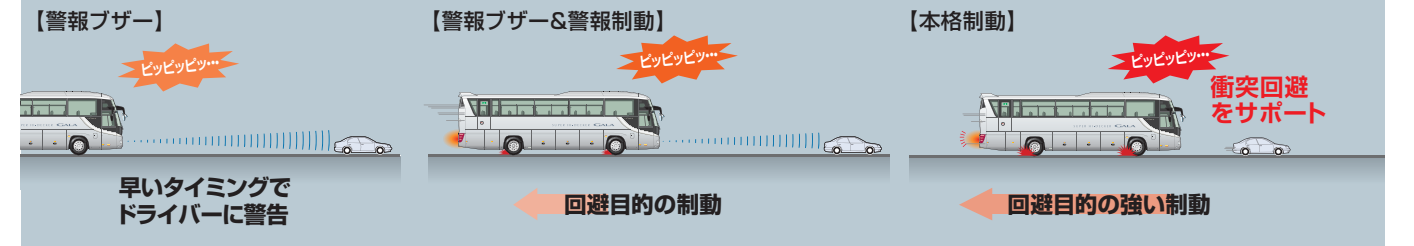
- 衝突の恐れがあると警報やブレーキ作動で注意。危険が高まるとより強力に制動。
- 衝突後も制動を継続し、被害を軽減。
- ストップランプ、ハザードランプの点滅で2次被害防止を支援。

※先行車の速度が10km/h以上、相対速度が50km/h以内で衝突回避を支援。相対速度が50km/hを超える場合は衝突被害を軽減します。

【衝突回避支援機能】

先行車が動いているとき 警報・制動の早期作動により、衝突回避を支援

- 1 ミリ波レーダーが前方の低速走行車を検知 追突の恐れがあるとドライバーへ警報が作動
- 2 追突の可能性が高まると警報+回避目的の制動が早期に作動
- 3 さらに追突の可能性が高まると、より強い警報と本格制動を作動させ衝突回避をサポート



<イメージ>

(2次被害軽減のためストップランプ「点灯」)

(停止時は2次被害軽減のためストップランプ「点滅」)
(停止時はハザード「点滅」)

【衝突被害軽減機能】

先行車が止まっているとき 走行状態を検知し、衝突時の被害を軽減

- 1 ミリ波レーダーが先行車との距離を常時認識
- 2 追突の可能性がある距離になると、警報音と弱いブレーキの作動によりドライバーに注意を喚起
- 3 危険回避が行なわれず追突が避けられないと判断すると、強いブレーキが作動し追突被害を軽減



<イメージ>

(2次被害軽減のためストップランプ「点灯」)

(2次被害軽減のためストップランプ「点滅」)
(衝突後はハザード「点滅」)



従来のレーザーレーダーに比べ、天候や汚れの影響を受けにくく、高速道から市街地まで幅広い車速域をカバーします。また、カーブ走行時の追従性にもすぐれています。いすゞガーラでは、この高精度なミリ波レーダーを採用しています。

